

佐賀県研究成果情報（平成 25 年 3 月作成）

佐賀県におけるニホンナシ発芽不良の発生実態					
[要約] 2009 年に発生したニホンナシの発芽不良は栽培面積の約 5%で発生し、「幸水」のトンネル栽培で最も多い。発芽不良の症状は芽の枯死、発芽の遅延、花数の減少、花器の異常など様々で、長果枝で発生が多い。					
果樹試験場・落葉果樹研究担当				連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対 象	ニホンナシ

[背景・ねらい]

これまで施設栽培を中心に問題となっていた発芽不良が 2009 年春に露地栽培でも確認された。発芽不良の発生は収量の減少や果実品質の低下をもたらすため、対策技術の開発が必要であるが、未だ発生要因について明らかとなっていない。そこで、佐賀県で発生した発芽不良の実態を調査するため、県内のナシ農家にアンケート調査を実施した。

[成果の内容・特徴]

1. 2009 年は回答者の総栽培面積約 5%で発芽不良が発生し、面積で見ると「幸水」が最も多く、作型ではトンネル、ハウス、露地の順に多い。(表 1)。
2. 2009 年は発芽不良程度の重い園が多いが、2010 年は程度の軽い園が多く、同一樹でも発生が連続するとは限らない(表 2)。
3. 発芽不良の症状は芽の枯死、発芽の遅延、花数の減少、花器の異常など様々である。(表 3)
4. 発芽不良は長果枝で発生が多く、長果枝の中では長大になるほど発生が多い。(表 4)

[成果の活用面・留意点]

1. 表 1 は佐賀県伊万里市南波多町のナシ農家において調査(2009 年 5 月、156 戸配布、回収率 73%)。
2. 表 2～4 は佐賀県内の全ナシ農家において調査(2010 年 11 月、290 戸配布、回収率 44%)。設問に対し複数回答可とした。

[具体的データ]

表 1 佐賀県伊万里市南波多町における 2009 年の発芽不良発生面積

(単位:a)

品種 作型	幸水			豊水			新高		合計
	ハウス	トンネル	露地	ハウス	トンネル	露地	トンネル	露地	
回答者の発生面積	102	394	17	0	4	26	3	22	568 (5.2%)
回答者の総栽培面積									10,959 (100%)
調査地域の総栽培面積	1,710	5,630	2,220	1,200	840	2,530	110	1,080	15,320

表 2 2009 年および 2010 年における発芽不良の発生程度の違い (%)

	2009年	2010年
樹全体が発芽しなかった	35.3	13.6
主枝先端で発芽しなかった	14.1	16.0
側枝単位で発芽しなかった	21.2	11.1
長果枝のみ発芽しなかった	15.3	6.2
所々、発芽しなかった	20.0	17.3
ごくわずか	11.8	37.0
	n=85	n=81 (複数回答)

表 3 発芽不良の症状

	(%)
枝ごと枯れこんでいた	23.9
枝は生きているが、芽のみ枯れた	42.5
長果枝の先端のみ開花、その下が発芽不良	44.2
短果枝の花芽が枯れていた	18.6
開花したが、花の数が少なかった	39.8
開花したが、花びらが焼けていた	20.4
開花したが、軸が短く萎縮していた	62.8

n=113 (複数回答)

表 4 発生枝の特徴

	(%)
強大な長果枝	40.8
適度な太さの長果枝	29.1
細くて貧弱な長果枝	11.7
短果枝	9.7
中果枝	3.9
わからない	19.4

n=103 (複数回答)

[その他]

研究課題名：ナシの発芽不良軽減技術の開発

予算区分：委託プロ（気候変動）

研究期間：2010～2014 年度

研究担当者：加藤恵、児玉龍彦、福田浩幸

発表論文等：